

〈本郷キャンパス〉
学校法人文京学園
文京学院大学経営学部・外国語学部・
保健医療技術学部／大学院／文京学院
大学生涯学習センター
〒113-8668 東京都文京区向丘1-19-1
☎大 03-3814-1661 生涯 03-5684-4816
文京学院大学文京幼稚園
〒113-0023 東京都文京区向丘 2-4-1
☎幼 03-3813-3771

〈ふじみ野キャンパス〉
文京学院大学人間学部・保健医療技術学部
／大学院／文京学院大学ふじみ野幼稚園
〒356-8533 埼玉県ふじみ野市電久保1196
☎大 049-261-6488 幼 049-262-3806
〈駒込キャンパス〉
文京学院大学女子高等学校／文京学院
大学女子中学校
〒113-8667 文京区本駒込 6-18-3
☎03-3946-5301



平成 27 年(2015 年)
9 月 30 日
第 713 号
発行
学校法人文京学園
http://bgu.ac.jp

大学 映画『瞬間少女』が映画祭でグランプリ ～経営学部学生が制作協力・配給～

経営学部の公野研究室が制作協力・配給を行った映画『瞬間少女』（監督・脚本：清水健斗／公開日：2013 年 8 月 31 日）が、株式会社ドリームキッド主催の国内映画祭「第 2 回 World gate Film Festival」にて、長編部門でグランプリを受賞しました。

同映画は、余命わずかな二人の少女・遥華と亜希が入院先の病院を抜け出し、お互いを労わりながらこれまでできなかった様々なことに挑戦し、生きていることにより得られる幸せな瞬間を心に留めていくヒューマンドラマ。主演の片岡華奈子（現在は芸名改め矢沢華奈子）と小室ゆらのリアルで透明感ある初々しい演技が「生きている瞬間」を鮮やかに表現した心に残る作品です。

公野研究室は、映画、舞台、アニメーション、コミック、玩具、キャラクター等のコンテンツを中心に、様々な企業との連携により、そのコンテンツのメカニズムと市場性を検証しています。公野勉教授は、円谷プロダクション、東北新社、ギャガ・コミュニケーションズ、日活などで、数多くの映画制作・配給を手掛けてきたプロフェッショナルで、清水氏が相談に訪れたことで同研究室の学生が作品制作に携わるプロジェクトがスタート。6 名の学生が主に制作と配給を担当しました。

制作では、キャスティングをはじめ、ロケーション撮影、劇場予告の編集など全体的なサポートに携わりました。配給



同作品のポスター、片岡（矢沢／上）と小室

では、上映劇場の選定や営業、宣伝プランニングなどを手掛け、東京の池袋シネマ・ロサで 2013 年 8 月 31 日から 9 月 13 日まで上映され、初日の舞台挨拶はほぼ満員で始まり、2 週間の興行で約 1,000 人の来場がありました。

なお、同作品は、2015 年 9 月 27 日に米国ロサンゼルスで開催された映画祭「LA Eiga-Fest 2015」でも上演され、好評を博しました。

SGH は、高等学校等におけるグローバル・リーダーの育成を図ることを目的としています。グローバル・リーダーとは、単に英語を話す人間ではなく、社会課題に対する関心と深い教養、コミュニケーション能力、問題解決力等の国際的素養を身につけ、将来、国際的に活躍できる人材のことを意味します。

その育成に役立つ教育を、本校の SGH 構想の表題は「『空間力』をもって、グローバル社会をデザインできる女性リーダー教育の

本校は平成 27 年度、文部科学省よりスーパーグローバルハイスクール（SGH）アソシエイトの指定を受けました。なお本校は、同省よりスーパーサイエンスハイスクール（SSH）の指定も受けており、国際教育と理数教育 2 つの分野での指定を受けているのは、都内女子校では本校のみです。今回は、本校 SGH アソシエイトの概要と、実際の活動についてリポートします。

★「国境」を軽やかに超えることができる行動力。
★異文化への理解と尊敬を基に、多様性を築きむことができる包容力。
★対話を通してお互いの関係を信頼関係に高めることのできるコミュニケーション力。



国際社会で活躍する女性職員の話聞いた高1の生徒たち（外務省にて）

女性が多く、最も職員数が少ない省。最低でも 2 年間海外で研修。国際交流に本文化を紹介できるよう

中高 文科省より指定！ 「スーパーグローバルハイスクール（SGH）アソシエイト」進行中

「という話を聞きまし

取り組みました。必要な情報を集め、わかりやすく伝わりやすい文章を書く練習になりました。

8 月 22 日には、JIC A 地球ひろばを訪問。青年海外協力隊としてラオス派遣の経験がある「地球案内人」から「バッグの生産・販売を軌道に乗せる支援を行ったが、自給自足で暮らしている現地の人々に『物を作る』という概念がなく、品質管理や接客など日本では当たり前のことを理解してもらう苦労があった」という話を聞きました。

SGH の重要な拠点として「国際塾」がありますが、詳細は次号に掲載します。

タイ教育省顧問のゴーン・ベツツワン氏（モンクット王カバン工科大学元学長）が、今年の春の外国人叙勲で旭日中綬章を受章されました。



本校から贈られた盾を持つ（左から）佐渡島大使、ゴーン氏、松本さん、職員のポチャニーさん（写真提供＝在タイ日本国大使館）

同氏は、タイの科学教育発展のために尽力され、功績のひとつに、12 校のプリンセス・チュラボン・サイエンス高校のカリキュラム改革が挙げられます。それにあたり、日本のスーパーサイエンスハイスクール（SSH）との教育提携を推進されました。

現在では 12 のサイエンス高校のすべてが、日本の SSH と交流協定を結んで学生交流を行っています。2012 年 7 月、12 校のうちの 1

本校から贈られた盾を持つ（左から）佐渡島大使、ゴーン氏、松本さん、職員のポチャニーさん（写真提供＝在タイ日本国大使館）

現在同氏は、立法議会の議員として、教育改革に尽力されています。

一方、このフロアに足を運んだことのない学生も少

今後は幅広く、留学とは直接関わりのない行事や委員会活動なども通じて、留学に関心をもつ学生をひとりでも増やそう、工夫して参ります。

中高 PCCP と本校の架け橋 ゴーン・ベツツワン氏が旭日中綬章を受章

タイ教育省顧問のゴーン・ベツツワン氏（モンクット王カバン工科大学元学長）が、今年の春の外国人叙勲で旭日中綬章を受章されました。

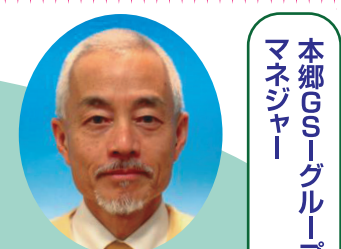
8 月 25 日、バンコクの在タイ日本国大使館で同氏への叙勲伝達式が行われ、佐渡島大使が勲章を贈呈。同大使館には、本校生徒の保護者・松本祥子さんが勤務されているため協力盾を贈呈しました。

タイ教育省顧問のゴーン・ベツツワン氏（モンクット王カバン工科大学元学長）が、今年の春の外国人叙勲で旭日中綬章を受章されました。

8 月 25 日、バンコクの在タイ日本国大使館で同氏への叙勲伝達式が行われ、佐渡島大使が勲章を贈呈。同大使館には、本校生徒の保護者・松本祥子さんが勤務されているため協力盾を贈呈しました。

本校では、毎年 200 名ほどの学生を海外留学に派遣しています。全学部生の 4 ～ 5 パーセントです。

留学プログラムは、主に春と夏の二つの時期に出発しており、それに向けて開催する留学説明会への出席者数を含めても、この数字は 2 桁には届きません。つまり、両キャンパス GS I グループがお世話をする学生は、話をする学生は、



本郷GSグループマネジャー
足立雄啓

Green Spirits 留学しましょう

みなさんのご支援をお願いします。

親交は、職員にとって日ごろの業務に励む大きな動機づけになっています。

留学プログラムの募集が始まり、応募者を募り、参加者が決まると、オリエンテーションなどを通して、参加学生との距離が縮まります。引率などで同行すると、これにさらに縮まり、それぞれの個性や嗜好がよく見えてきます。一方、同様に、こちらの素性も知られることになり、親しくなったからと言って、気を抜く訳にはいきません。

とはいえ、学生との親交は、職員にとって日ごろの業務に励む大きな動機づけになっています。

そこで、6 月から 7 月に掛けての一週間を通して昼休みに、最も学生が集まる場所である食堂において、留学フェアと銘打って、説明会を提供しました。残念ながら、食事と談笑に忙しい学生の大きな関心を引くことはできませんでしたが、10 月 7 日（水）から 15 日（木）まで、再度実施することになっています。

特集 大学 「国際連携教育プログラム」

GSI (Global Studies Institute) グループでは、交換留学、語学留学、海外フィールドワークなど、本学の学生を派遣するプログラムだけではなく、海外協定校からの学生を受け入れるプログラムも担当しています。その代表的なものは「国際連携教育プログラム」です。今回は、現在、本学に留学中の学生たちの様子を特集します。(ふみ野GSIは別号掲載)

5カ国21名の留学生に心を込めて対応

ス／セント・ベネディクト大学の二大学協定プログラムでしたが、翌年以降、マラカナン・マレーシアをはじめ多くの大学と協定を



工藤学長(前列左から8人目)を囲む21名の留学生と関係者

同プログラムは、交換留学学生が本学で英語での授業を履修し、日本文化の体験を通して本学の学生との交流を深めることを目的として、2001年の外国語学部設立と同時にスタート。2年間の準備期間を経て、2003年に第一回が実施されました。当初は、米国のセント・ジョン



ベネツ先生の功績を称えた銘板「ラム」開講式が営

大学 環境教育研究センター 「まなびとあそびのキャンパス」大盛況！

幼児から小学校6年生までを対象にした「まなびとあそびのキャンパス」(主催：環境教育研究センター)が8月1日、ふみ野キャンパスで開かれました。

テーマは、「大学のおにいさんとおねえさんあそぼ」。

①「まなびとあそびのキャンパス」(主催：環境教育研究センター)が8月1日、ふみ野キャンパスで開かれました。

②「まなびとあそびのキャンパス」(主催：環境教育研究センター)が8月1日、ふみ野キャンパスで開かれました。



根津神社例大祭で神輿担ぎ



いなせな姿で立派な担ぎ手

軽井沢研修旅行でコミュニケーション

9月5日から7日まで、本学の軽井沢センターハウスを拠点とした研修旅行。浅間湖文化ミュージアムを訪れた際は、弓矢の使い方や小枝を摩擦して火をこらす体験を通して、留学生同士のコミュニケーションが密になり、良いチームワークが期待できるようになりました。

防災センターで災害体験



8月29日には、東京都北區防災センターで地震の科学館を訪ね、実際の地震の揺れや、煙からの避難、消火器を使った消火などを体験しました。



御魂入れの儀で神秘体験



周囲からの注目を浴びて神輿担ぎ



宮本町の提灯を掲げて



夜まで続く神輿担ぎ



そして20日は、いよいよ根津神社例大祭！「東京社」のひとつである同神社例大祭は、江戸三太

物まです自由になれる不思議な種です。子どもたちの創造力をかきたて、何でも様々な形に挑戦しました。各コーナー、生き生きと



「頑張るぞー！元気に出陣式」



「水を使っておぼろ」



「うたてあそび」



「まなびとあそびのキャンパス」



「まなびとあそびのキャンパス」



「まなびとあそびのキャンパス」



「まなびとあそびのキャンパス」

中高 卒業生の集いに60名

9月26日、駒込キャンパス「文女祭」に合わせ、カフエテリアにて卒業生の集い(主催：「鏡友会」高島宏之会)が開かれ、約60名の卒業生が参加しました。



懐かしい島田学園長(奥中央)の挨拶に耳を傾ける卒業生

中高 「文女祭」あやめさい

9月26・27日、駒込キャンパスで「文女祭」が開催されました。今年のテーマは「Story of me」。

本校の特徴は展示部門の充実度。高1クラス研究展示部門では、各クラスが日頃の研究成果についてプレゼンテーションした。



文女祭本部では、クリアファイルが限定販売され



ゲームや会話を楽しん



「まなびとあそびのキャンパス」



「まなびとあそびのキャンパス」



「まなびとあそびのキャンパス」



「まなびとあそびのキャンパス」



「まなびとあそびのキャンパス」

高校 SSH(スーパーサイエンスハイスクール)便り ②8

「女性が輝く社会に向けた国際シンポジウム」で学ぶ

都内女子校で唯一、文部科学省からSSHの指定を受けている本校では、生徒たちが日常の研究を通して得た理数知識を駆使し、高度な発表にチャレンジしています。



SSH4校の生徒たち 女性リーダーと共に
(中列左から4人目が本校の石田さん、5人目が宮崎さん)

さん(同)が参加しました。初日の公開フォーラムでは、安倍総理大臣がオープニングスピーチを実施。その後、世界各国及び日本各地から女性分野で活躍するトップ・リーダーが、女性の活躍促進のための取り組みについて議論と提案を行いました。

石田さんと宮崎さんが活躍したのは、2日目に行われたハイレベル・ラウンドテーブルの中のスペシャル・セッション。「自然科学分野と女性」などをテーマにパネルディスカッションを行いました。その中で、宇宙飛行士の山崎直子さんに直接質問するチャンスがあり、総理夫人からもエールをいただきました。

同セッションを通じて、二人は深く考えました。石田「スペシャル・セッションでは、今の女性の立場や、今後理数分野で女性が活躍していくにはどうしたら良いかなど、現在の課題について話があり、現状を知ることができた。私は、なぜ理数に女性が少ないのか不思議だった

が、最前線で活躍する女性の方々がおっしゃっていたように、実際、男性よりも女性の方が成績が良く、今後に期待されているという事実を知り、自分に自信を持つことが大切だと思う。課題に出合ったとしても、できないと決めつけるのではなく、何か一つは行動を起こし、いろいろなことに挑戦していこうと思った」

宮崎「自然科学分野と女性」『アジアにおける女性起業家への支援』というセッションに参加した。女性らしい目線が必要とされている一方で、女性の立場が確立されていない地域もある、そんな世界で活躍している女性たちのセッションでは、私たち女子高生への思いが熱く語られた。私たちはもっと女性であることに誇りを持ち、私たちの目線や考え方をサイエンス分野にもっと多く発信していくべきだと教わった。

「自分に自信を持ち、自分らしさを大切にしていくこと」の大切さを学び、私は夢に向けて頑張ろうと改めて思った」



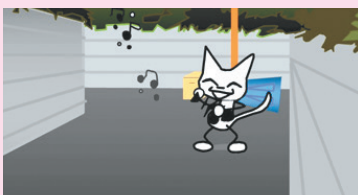
文京コンテンツアワード2015

入選作品発表!

第4回「文京コンテンツアワード2015」が8月1日、Bs cafeで開催され、学生、企業関係者、卒業生などが来場し、会場が賑わいました。同コンテストでは、本学学生以外にも高校生以上の学生を対象に、商品化・ビジネス化を前提としたコンテンツ作品を募集。厳正なる選考の結果、以下の8作品が入選しました。

これらは、来年3月に東京ビッグサイトで行われる「Anime Japan2016」の本学ブースで上映・展示される予定です。

また、入選作品の中で特に商品化に適した作品は、マーケティングゼミ生がフィールドワーク授業の中で商品化し、企業に提案していきます。レセプションでは、学生たちが現在進行中の産学連携プロジェクトの商品化進捗報告を行い、企業担当者に講評をいただきました。



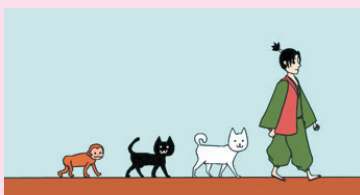
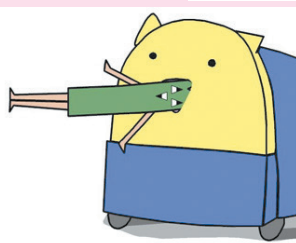
「ゴミ置き場で」
石川健太(経営学部2年)



「猫の冒険」
中村美香(経営学部2年)

特別賞

「BG」木村健太、鈴木貴大、高橋一成(経営学部3年)



「ももたろう」
加藤葵(経営学部2年)

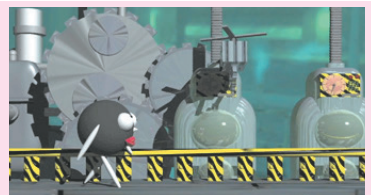
入選



「ホーリーモンスター」中田遥、
佐藤真由美、遠藤翔月(経営学部3年)



「Where is 赤ずきん」
麻生小百合(経営学部2年)



「スーパージョナサン」馬場直人、
林直樹、青木一泰(経営学部3年)



「日常」
桑子涵(経営学部2年)

優秀賞

★輝く卒業生★ 理学療法学科OG 百瀬友美さん スーダンで活動

本学の卒業生は、学生時代に体得した「自立と共生」の精神で、豊かなコミュニケーション力を駆使し、国内外の至る所で活躍しています。今号より適時、その輝く姿を報告します。

平成22年3月に保健医療技術学部理学療法学科を卒業した百瀬友美さんが、青年海外協力隊の一員として2年間、スーダンで理学療法士として活躍しました。同国での活動の様子が、「理学療法士 in スーダン〜青年海外協力隊の現場から〜」をタイトルに9月1日、動画配信されました(JICA制作)。<https://www.youtube.com/watch?v=ZXzvZvzvsGU>

百瀬さんは、National Authority for Prosthetics and Orthotics(国立義肢装具支援機構/通称ナポ)で、全国から来る患者に、義手・義足などの提供、リハビリ(装着・歩行訓練)のサポート活動を行っています。アフリカ大陸を南北に流れるナイル川の中心に位置し、気温は最大で50℃に達する過酷な環境で、百瀬さんは常に「幸せとは何か?」を問い続けてきました。上司は百瀬さんを「素晴らしいコミュニケーション力で、すべての人と信頼関係を築いて活動している」と評価。同僚も「休むことなく飛び回っている。スーダン人と結婚して、ここに残ってほしい」と熱望するほど深い関係を構築。百瀬さんもまた「スーダンは第2の故郷。また戻ってきたい」と希望しています。

新書コーナー

★新版「健康食品の基礎知識」芝 紀代子(本学名誉教授)編著/金森きよ子(臨床検査学科准教授)ほか著/株じほう刊(2015年9月)3,240円(税込)

2015年4月から新たに機能性表示食品制度がスタートし、保健機能食品市場は活況を呈していますが、健康食品は、摂取を間違えると人体に被害を及ぼします。本書は、食品や栄養に関する知識、疾患と栄養、食品と医薬品との相互作用、食品衛生など、多方向からアプローチしながら健康食品を正しく理解するための正統派テキストです。

